

主張

「行動する全日中」―政策提言のできるシンクタンクに

新藤 久典

あけましておめでとうございます。

今年度は、「全日中教育ビジョン―学校からの教育改革」元年として、特に第三章に示された10の課題に、それぞれの実態に応じて全中学校で取り組むという画期的な年度となりました。ある会員から「これまで全日中の存在は何となく遠く感じられることがあったが、『全日中教育ビジョン』が策定され、全ての校長が同じ課題を背負い、悩みながらも力強く歩んでいる同士であることを感じることができました。」という言葉を聞きました。こうした「われわれ意識・共感」こそ、「全日中教育ビジョン」策定の意義であったと意を強くすることができました。課題への取組を通して見えてきた障壁を、全日中の誇る確かな行動力で一つ一つ着実に解決していく道筋を明らかにすることこそ、私に与えられた使命であると改めて肝に銘じた次第です。

とは言うものの、校長に課せられる課題は尽きることがありません。特に、今、中央教育審議会で急ピッチに審議が進められている「教員の資質能力の向上に関する特別部会」と「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」が扱っている課題は重く、全日中としての見識が問われる重要な課題であると認識する必要があります。大量退職・大量採用の時代を控え、先輩教員が培ってきた知識・技能をどのようにして着実に新人教員に伝承するか、校長のリーダーシップが強く問われることとなります。大量の新人教員と少数の中堅教員からなる教員集団をいかにまとめ、生徒・保護者、地域社会の期待・要望に応える確

かな教育実践を実現させるか、校長のマネジメント能力はこれまで以上に強く求められ、その覚悟のほどを試されようとしています。全日中としては、「全日中教育ビジョン」の具体化の実践研究の交流を通して、校長としてのリーダーシップ、マネジメント能力を高め、難局を乗り切らねばならないと考えています。さらに、特別支援教育の在り方についても、校長としての識見と確かなリーダーシップに基づき実践力が問われようとしています。これまでの我が国における障害のある児童生徒の教育の在り方等を、国際標準に照らして見直し、共に学ぶことを原則とする日本的インクルーシブ教育システムの構築が国際的に求められています。今、我々が進めてきている特別支援教育をより充実させ、個別指導計画等の個に応じた指導計画を学校、生徒・保護者、関係諸機関が緊密に連携して策定し、全ての生徒の個性・能力を最大限に開花させ、「生きる力」をはぐくみ、社会に積極的に参画できる基礎をしっかりと築くシステムを構築しなければなりません。そのためには、教職員の意識改革、専門性の向上を図り、指導技術を担保することが必須要件となります。知識だけではなく、様々なスキルをどう高めていくか、校長としての確かなリーダーシップとマネジメント能力が強く求められようとしているのです。

こうした課題に向かうとき、これまでのように、教育行政側からトップダウンで示される課題に因應するだけではなく、校長としての強い指導力を発揮し、教職員を組織し、特色ある教育活動をおとして、ボトムアップする学校からの教育改革で応えていくことこそ、校長としての責務であると考えます。そのためにも、全日中は、全国の会員の力を結集し、十年先、百年先を見通した教育のあるべき姿とそれを実現可能なならしめる設計図を示せる確かな力を持った政策提言集団、シンクタンクに成長しなければならぬと考えています。「行動する全日中」「有言実行の全日中」として、今年は大らかな転機を迎える覚悟が求められる予感がしています。

(全日本中学校長会会長・新宿区立西戸山中学校長)